

令和7年度
運営に関する計画・自己評価

R7/ 4/1
大阪市立中野中学校

令和7年度 運営に関する計画

[校訓]

希望に起き 努力に生き 感謝に眠る

[学校教育目標] (R 6 目標)

『自立貢献』～社会に貢献できる、自立した人間の育成～

[重点項目] (R 6 項目)

「わかる授業」 授業規律を整え、わかる・楽しくなる授業の実践

「規律・規範・自主性」 自分を律し、主体的な判断や行動のできる生徒の育成

[組織目標] (R 6 目標 目標管理シート・人事考課シート)

心豊かに力強く生き抜き、未来を切り拓くための学力・体力向上

[本市教育振興基本計画 基本理念]

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

《具体的方策》

1. 基礎的・基本的な内容の確実な定着と、生徒の活発な意見をもとにした学習活動を充実し、自ら考え、意欲的に解決する力を育む。
2. 豊かな体験的活動を通して、個性を尊重し、互いに支えあう集団の育成を図り、思いやりの心や感動する心を育む。
3. 自らの健康や体力に関心をもち、健康でたくましい心身を養い、自律的な生活習慣や態度を育む。
4. 今日的課題に対応する教育を充実させ、自らの判断で、生きるべき道を選択し、決定するとともに、社会の変化に的確に対応できる力を育む。
5. 地域・保護者の学校支援体制を構築し、家庭や地域の教育力を活かした教育活動を進めるなかで、地域行事への積極的な参加とともに、地域の一員である自覚と感謝する心を育む。

《具体的目標》

何ごとも「心」をこめて行動する生徒の育成

1. 気持ちよく挨拶のできる生徒の育成
2. 時間を守ることのできる生徒の育成
3. 思いやりある言葉遣いができる生徒の育成
4. 自らすんで掃除をする生徒の育成
5. 正しい身だしなみを自らできる生徒の育成

1 学校運営の中期目標

【学校教育目標】

『自立貢献』

～社会に貢献できる、自立した人間の育成～

【重点項目】

- 「わかる授業」 …授業規律を整え、わかる・楽しくなる授業の実践
- 「規律・規範・主体性」 …自分を律し、主体的な判断や行動のできる生徒の育成
- 「人権尊重」 …自他の尊厳を認め合う、心温かい生徒の育成

【現状と課題】

【安全・安心な教育の推進】

学力向上を図るため、本校では「授業に集中できる環境整備」に注力してきた。その結果、生徒アンケートでの「授業に集中できる環境が整っている」に対する肯定的回答が8年前の25.6%から令和6年度には77%まで向上した。落ち着いた学校生活を送れる環境ができてきているといえる。しかし、いじめ・問題行動は調査結果では過去3年間で何件か事象が起きている。生徒、保護者、教職員で情報を共有徹底し、組織だった取り組みを推進していく必要がある。学校生活では活動の中心が授業であり、その中で子どもと向き合いながら、規範意識、自己肯定感を高め、「自律・自立」できる人格の形成を目指していく。また、本校では不登校の問題が大きな課題であり、子どもに寄り添った指導を通して、「中一ギャップ」などのつまずきを減少させていく。並行して近年増加している特別支援クラスの在籍人数も鑑み、インクルーシブ教育の環境強化を推進する。また、中野中学校は積極的な部活動指導と教科学習の両軸に、キャリア教育を据えている。コロナ禍をようやく終え、将来の生き方を考え未来に希望を持ち、世の中の役に立つ、自立した生徒の育成を目指し、社会性の向上を図る。

地域においては、校区小学校の校長・生活指導主担・PTA役員、青少年指導員、主任児童員さんとも五校生活指導連絡協議会を年に2回行い、安心・安全な学校・地域の実現に寄与頂いており、より一層継続、強化していく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全国体力調査(令和6年度)を見た場合、体力合計点が男女とも全国を上回る結果となった。今後に向けて、運動は好きであるかという項目は男女とも高いので、体力向上とともに前向きな気持ちの醸成の構築を重視して取り組む。

朝食摂取・睡眠時間の確保等基本的生活習慣の確保が・社会性・学力・体力にも影響を及ぼすので引き続き、安定的生活習慣の啓発に取り組んでいく。

【学びを支える教育環境の充実】

1人1台端末の整備やICT機器を活用した授業の推進が進んできており、各教科での授業への工夫から各種数値は改善してきている。「主体的・対話的で深い学び」を通して授業の改善を学習者の視点と授業者の視点から再構築を図ることにより、授業における整理した資質・能力を育成する。自己のキャリア形成と方向性を関連付けながら粘り強く取り組むために「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を子どもが自ら考える「主体的な学び」、子ども同士の協同や人との対話を通して自己の考えを広げ深める「対話的な学び」、各教科の情報を精査し、問題を見出し、解決策を考えるなど「深い学び」を実現できるようにする。

学校元気アップ地域本部事業と連携し、子どもが自主的に学習に臨む支援体制を強化、授業内・授業外での学習習慣を向上させる。

教職員と共に、関係諸機関や、スクールオポーター、SC、部活動指導員、C-net、元気アップ、地域なども交え、中野中に関係する方との連係を強化し、子どもの人格の完成に繋がりで取り組むことが、上記2領域実現のポイントとなる。

中期目標 ・概ね4年以内に「何をどのような状態にするのか」について記述

【安全・安心な教育の推進】

施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現

○いじめ・問題行動・不登校問題への対応

- ・問題行動調査におけるいじめの解消率を95%以上にする。
- ・不登校の割合を4.0%未満にする。

施策2 道徳心・社会性の育成

○規範意識の育成

- ・2025年度末の生徒アンケートにおいて、「あなたは学校の規則を守っている」の肯定的な意見を85%以上にする。(24年度末 82%)

○キャリア教育の推進

- ・2025年度末の生徒アンケートにおいて、「自分の進路や生き方について希望を持っている」の肯定的な意見を80%以上にする。(24年度末 76%)

○人権を尊重する教育の推進

- ・2025年度末の生徒アンケートにおいて、「学級はでは違った考え方や意見を受け入れる雰囲気がある」の肯定的な意見を80%以上にする。(24年度末 75%)

○インクルーシブ教育システムの充実と推進

- ・研修等を通じて、発達障害を含む障がいの理解が進んだと答える教職員の割合を100%にする。(教員アンケート)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み

○全国・府チャレンジテストにおいて

- ・府平均を上回る正答率を確保する
- ・2025年度末の生徒アンケートにおいて、「学校の授業はわかりやすいですか」の肯定的な意見を80%以上にする。(24年度末 70%)
- ・また同アンケートにて「授業が集中して聞ける環境にありますか」の肯定的な意見を75%にする。(24年度末 60%)

○「主体的・対話的で深い学び」の推進

- ・2025年度の全国学テ調査にて「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする事ができていますか」の肯定的な意見を60%にする。

○放課後等を利用した学習機会の支援

- ・2024年度の全国学テ調査にて「家庭で学習する」割合を55%にする

施策6 国際社会において生き抜く力の醸成

- ・2025年度末段階で英検3級程度以上の英語力を有する生徒の割合50%を目指す

施策7 健康や体力を保持増進する力の醸成

○子どもの体力・運動能力向上のための取り組みの充実

- ・2025年度の「全国体力・運動能力、運動習慣調査」の体力合計点で府を上回る。

○食育の推進

- ・2025年度末の生徒アンケートにおいて、「朝食を毎日食べている」の肯定的な意見を90%に近づける。(24年度末 86%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

全市共通目標（小・中学校）

最重要目標1 【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度末の校内調査における、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を95%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査において、不登校の生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・令和7年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現

○いじめ・問題行動・不登校問題への対応

- ・問題行動調査におけるいじめの解消率を95%以上にする。
- ・不登校の割合を8%未満にする。

施策2 道徳心・社会性の育成

○規範意識の育成

- ・2025年度末の生徒アンケートにおいて、「正しい言葉遣いで会話し、しっかり挨拶ができるている」の肯定的な意見を90%以上にする。（24年度末 88%）

○キャリア教育の推進

- ・2025年度末の生徒アンケートにおいて、「自分の進路や生き方について希望を持っている」の肯定的な意見を80%以上にする。（24年度末 76%）
- ・2025年度末の生徒アンケートにおいて、「学校では命や人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的な意見を85%以上にする。（24年度末 83%）

○インクルーシブ教育システムの充実と推進

- ・研修等を通じて、発達障害を含む障がいの理解が進んだと答える教職員の割合を100%にする。（教員アンケート）

全市共通目標（小・中学校）

最重要課題2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度末の校内調査における、「自分は難しいことがあっても、あきらめない」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。（24年度末 72%）
- ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を50%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。

学校園の年度目標

施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み

○全国・府チャレンジテストにおいて

- ・府平均を上回る正答率を確保する

・2025 年度末の生徒アンケートにおいて、「学校の授業はわかりやすいですか」の肯定的な意見を 80%以上にする。(24 年度末 70%)

・また同アンケートにて「授業が集中して聞ける環境にありますか」の肯定的な意見を 75%にする。(24 年度末 60%)

○「主体的・対話的で深い学び」の推進

・2025 年度の全国学テ調査にて「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする事ができていますか」の肯定的な意見を 60%にする。

○放課後等を利用した学習機会の支援

・2024 年度の全国学テ調査にて「家庭で学習する」割合を 55%にする

施策 6 国際社会において生き抜く力の醸成

・令和 7 年度末段階で英検 3 級程度以上の英語力を有する生徒の割合 50%を目指す

施策 7 健康や体力を保持増進する力の醸成

○子どもの体力・運動能力向上のための取り組みの充実

・令和 7 年度の「全国体力・運動能力、運動習慣調査」の体力合計点で府を上回る。

○食育の推進

・2025 年度末の生徒アンケートにおいて、「朝食を毎日食べている」の肯定的な意見を 90%に近づける。(24 年度末 86%)

全市共通目標（小・中学校）

最重要課題 3 【学びを支える教育環境の実現】

・学習用端末を活用した家庭学習を週 1 回以上実施する。

・ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。

大阪市立中野中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>最重要課題1 【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度末の校内調査における、「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を95%以上にする。 令和7年度末の校内調査において、不登校の生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 令和7年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <p>施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現</p> <p>○いじめ・問題行動・不登校問題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題行動調査におけるいじめの解消率を95%以上にする。 不登校の割合を8%未満にする。 <p>施策2 道徳心・社会性の育成</p> <p>○規範意識の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 2025年度末の生徒アンケートにおいて、「正しい言葉遣いで会話し、しっかり挨拶ができている」の肯定的な意見を90%以上にする。(24年度末 88%) <p>○キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 2025年度末の生徒アンケートにおいて、「自分の進路や生き方について希望を持っている」の肯定的な意見を80%以上にする。(24年度末 76%) 2025年度末の生徒アンケートにおいて、「学校では命や人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的な意見を85%以上にする。(24年度末 83%) <p>○インクルーシブ教育システムの充実と推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修等を通じて、発達障害を含む障がいの理解が進んだと答える教職員の割合を100%にする。(教員アンケート) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ○いじめ・問題行動への対応 ・配慮事項のある生徒や生徒の情報を生活指導部で共有していじめについて対応策を月一回検討する (いじめへの対応・生活指導部)	
指標 ・学期の終わりに必ず1回いじめのアンケートを実施する。認知したいじめについて、解消に向けて対応している(解消した、一定の解消が見られたが継続支援中を含む)割合を100%以上にする。 ・スクリーニングシートなどを活用し、月に1回スクリーニング①の会議を行う。	
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ○いじめ・問題行動・不登校問題への対応 ・長期欠席につながらないよう、欠席者に対しては、その都度、電話や家庭訪問を行い、保護者・生徒とつながりを持つ。さらに、改善が難しい場合は、SCや校外の諸機関と連携して生徒の対応にあたる。 ・早期発見につながるように年に2回は教育相談の機会をもつ。 ・早期に外部機関などと相談ができるような案内プリントを年に1回以上配布する。 ・家庭訪問や電話連絡の際に本人、保護者と会話できるようにする。 (不登校への対応・生活指導部)	
指標 ・不登校生の数(在籍に対する割合)を8~9%以内にする	
取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】 <u>○規範意識の育成</u> ・教職員が、問題行動に対して同じ認識で対応できるよう共通理解を図る。 ・学年間での連携のため主任会で生活指導事案や対応策を報告しあう。 ・学校外の諸機関をとり、講話などの取り組みを行う。 (問題行動への対応 生活指導部)	
指標 ・規範意識を高めるような講話教室を年に1回以上は実施する。 ・生徒アンケートにおける「学校の決まりを守っているか」の項目について、「あてはまる(どちらかといえばあてはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする	
取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 <u>○キャリア教育の推進</u> ・職場体験の復活を模索する。 ・キャリア教育・キャリアパスポートを通して将来の生き方について考えさせる。 (キャリア教育の推進 キャリア教育委員会)	
・各学年ともキャリア教育の実践を必ず行う。 ・令和7(2025)年度の生徒アンケートにおける「自分の進路や生き方について希望を持っている」の項目について、「よく当てはまる(だいたい当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容⑤ 【施策2 共生社会に生きる人材の育成】 ○人権を尊重する教育の推進 他者の個性、違いを尊重し、ともに生きていくことができるような人権感覚を育成する。 (人権を尊重する教育の推進 人権教育委員会)</p>	
<p>指標</p> <p>①外国にルーツのある生徒をはじめとして、すべての生徒の背景を深く知ろうと努める。 (外国にルーツを持つ生徒の名簿を作成し、共通理解を図るとともに当該の生徒にアプローチをする)</p> <p>②各学年、学期ごとにテーマを定め人権教育を実践する。</p> <p>③人権教育の観点から生徒の様子や実践の状況を交流する。</p> <p>④人権にかかわる講演会を生徒向けに実施する。</p> <p>⑤教職員の人権感覚を高める。そのため教職員向けの学習の機会を設ける。</p> <p>⑥大阪市人権教育研究大会の全体会、分科会に最低延べ6名が参加できる体制をとる。</p> <p>⑦区人権講演会並びに区人権教育実践交流会に教員の8割以上が参加できる体制をとる。</p>	
<p>取組内容⑥ 【施策2 道徳心・社会性の育成】 ○規範意識の育成 生徒の社会性、公共性を育てるために、道徳の授業や学年会と連携を持ち、役割と計画に基づいた実践を行う。 (道徳教育の推進 道徳教育委員会)</p>	
<p>指標</p> <p>「公正な心や思いやりの心を育てる」「社会の一員としての自覚を高める」など、実践のねらいを明確にし、共有化して、一定の期間内に確実に取り組む。</p>	
<p>取組内容⑦ 【施策2 道徳心・社会性の育成】 ○人権を尊重する教育の推進 ・各種委員会と連携した生徒会活動を活発に進めることで、活動の幅を広げる。 ・全校集会や生徒議会の運営、ボランティア活動などを通して、自主的・実践的な態度をはぐくむ。 ・集団活動を通して個を鍛え、リーダー育成を図る。 ・文化祭や卒業生を送る会などで中心となり、運営していく力を身に着ける。 (社会性の推進 生活指導部)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちからの意見をもとに、生徒会スローガンを設定する。 ・天候に関わらず、生徒会役員を中心に全校集会を運営する。 ・清掃活動などのボランティア活動を、年2回以上実施する。 	
<p>取組内容⑧ 【施策2 道徳心・社会性の育成】 ○インクルーシブ教育システムの充実と推進 特別支援教育委員会を中心に生徒の状況を全教職員で共通理解し組織的・計画的に支援に取り組む。 (特別支援教育の推進・特別支援教育委員会)</p>	
<p>指標</p>	

- ・個別の支援計画、指導計画を生徒ごとに作成し、それに基づいて支援をしていく。
- ・学力保障の観点から、抽出または入り込みによる支援の方策を研究し支援をしていく。
- ・巡回相談を依頼し指導員からモデル生徒の助言やアドバイスを受け支援方法を考える。その上で合理的配慮を伴った支援をしていく。
- ・生活経験を増やすために教科学習以外の活動なども行う。またその様子や成果を見る形で発信していく。
- ・登校が困難な生徒に対して特別支援学級教室を積極的に活用してもらい居場所づくりを提供する。学習や自立活動を行い自信を持たせ最終的に学級で活動できるように支援していく。
- ・抽出の授業でICT機器を利用して行う。

年度目標	達成状況
<p>最重要課題 2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度末の校内調査における、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 60%以上にする。 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 50%以上にする。 令和 6 年度末の校内調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 50%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <p>施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国・府チャレンジテストにおいて <ul style="list-style-type: none"> 市平均を上回る正答率を確保する 2025 年度末の生徒アンケートにおいて、「学校の授業はわかりやすいですか」の肯定的な意見を 80%以上にする。（24 年度末 70%） また同アンケートにて「授業が集中して聞ける環境にありますか」の肯定的な意見を 75%にする。（24 年度末 60%） ○「主体的・対話的で深い学び」の推進 <ul style="list-style-type: none"> 2025 年度の全国学テ調査にて「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする事ができていますか」の肯定的な意見を 60%にする。 ○放課後等を利用した学習機会の支援 <ul style="list-style-type: none"> 2024 年度の全国学テ調査にて「家庭で学習する」割合を 55%にする <p>施策 6 國際社会において生き抜く力の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度末段階で英検 3 級程度以上の英語力を有する生徒の割合 50%を目指す <p>施策 7 健康や体力を保持増進する力の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの体力・運動能力向上のための取り組みの充実 <ul style="list-style-type: none"> 令和 7 年度の「全国体力・運動能力、運動習慣調査」の体力合計点で府を上回る。 ○食育の推進 <ul style="list-style-type: none"> 2025 年度末の生徒アンケートにおいて、「朝食を毎日食べている」の肯定的な意見を 90%に近づける。（24 年度末 86%） <p>最重要課題 3 【学びを支える教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習用端末を活用した家庭学習を週 1 回以上実施する。 ゆとりの日を週に 1 回設定・実施する。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容⑨ 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末を活用した学習活動を実践し、個別最適な学びを推進する。 ICT機器を利用した授業で基礎学力の定着をはかる教材などを活用する。 (授業研究を伴う校内研修の充実・教務部) 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ICT機器などを活用した授業を実施した職員の数を全体の半数を超えるようにする。 R7年度末の生徒アンケートで「学校の授業はわかりやすいですか」の項目の肯定的な回答の割合を80%以上にする。 	
取組内容⑩ 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> 公開授業における職員の参加率を昨年度以上にし、教員の授業力向上に繋げる。 授業の予習・復習などに利用できる教材等を活用し、自ら学ぶ態度を養い基礎学力の定着を図る。 (授業研究を伴う校内研修の充実・教務部) 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 公開授業における教員の参加率を上げ、自己の授業をふりかえる時間につくる。 生徒アンケートの「自分は家で学習（塾以外で1時間以上）をしている。」の項目の肯定的な回答の割合を50%以上にする。 	
取組内容⑪-1【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】(国語) <ul style="list-style-type: none"> 確かな学力の定着をはかり、知識や技能を活用する力を養う。漢字テスト等の小テストや資料を用いた言語的な活動により、語彙を豊かにさせる。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように書く力を身に着けさせるため、書く活動として、作文、意見文、俳句、短歌等の創作活動を年間20回程度行う。また、主体的な学習活動として、個人の意見を発表する場を単元ごとに設ける。 	
取組内容⑪-2【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】(社会) <ul style="list-style-type: none"> 統計資料や史料から生徒が自ら課題を発見し、解決する機会をつくる。 社会事象や歴史的背景について、生徒が意見発表やディベートなど協働的に学び、自らの考えを広げ、深める機会をつくる。そのためにデジタル教材やタブレット端末などの活用を図る。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートで「授業がわかりやすい」という肯定的な意見を75%以上にする。 	
取組内容⑪-3【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】(数学) <ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に合わせた教材研究を行う。また、ICT機器等を活用し意欲を高め、基礎基本の定着を図る。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着を図るため、定期テストでの知識・技能分野の正答率を6割程度にする。 	
取組内容⑪-4【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】(理科) <ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて、基礎学力の定着を図るために、小テストや単元テストを行う。実験・観 	

<p>察を積極的に行い、自ら考え行動する中で、目的に対する論理的思考を育成する。また、教材を精査し、ICT 機器を活用もしながら、深く理解できるようにする。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間通して 3 年生は 30 時間以上、1、2 年生は 40 時間以上の実験・観察を行っていく。 	
<p>取組内容⑪-5 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】(英語) 【施策 6 国際社会において生き抜く力の醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業を全学年で実施し、生徒のニーズに合わせた細やかな学習指導を行う。 ・C-NET とともに、4 技能のバランスを考えた活動を行い、その知識を生かしてコミュニケーションの目的・場面・状況等に応じて適切に表現する力を高める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年末にアンケートをとり、「英語がわかるようになった」の項目で肯定的解答率を 70% 以上にする。 ・C-NET とともにパフォーマンステストを各学期に 1 回程度行い、達成率を 70% 以上にする。 	
<p>取組内容⑪-6 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】(音楽)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じて、表現及び鑑賞の幅広い活動を行い、音楽に対する感性や豊かな情操を養う。生徒主体で学びを深められるように、グループ活動を行う場面を増やす。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートを行い、「皆と協力して、グループ活動に取り組めた」という項目について、“よく取り組めた” “取り組めた”という肯定的な回答を 92 % 以上となるようにする。 	
<p>取組内容⑪-7 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】(美術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態にあつた教材を精選し、興味関心を持たせ、意欲的に作品に取り組めるように指導する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通してデザイン・絵画・造形・鑑賞の分野に触れ、調べ学習や参考作品等を活用し、それぞれの作品の完成やレポートなどの提出が生徒の 80 % となるようにする。 	
<p>取組内容⑪-8 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】(保健体育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動を充実させ、生徒自ら学ぶ姿勢を育てる。 ・ICT を取り入れ、実際に自分の姿を見直すことで、より適切に体力向上に結びつける。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートや感想などを活用するなどして、単元ごとに自分の振り返る機会を行う。 ・アンケートを実施し、「どちらかというと意欲的に取り組めた」という生徒の割合を 90 % 以上にするとともに「意欲的に取り組めなかった。」と答える生徒の割合を 5 % 未満に減らす。 	
<p>取組内容⑪-9 【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】(技術家庭)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験的・実践的な学習も行い、生徒個々の進度に合わせた授業・補充を行う。 また、タブレットを使用した授業についても行い自己表現の場として発表の場面を設ける。 	
<p>指標 体験的・実践的な学習を学期に 3 時間以上実施する。</p> <p>技術 ・実習等を通して生活に役立てられると答える割合を 80 % 以上にする。</p> <p>家庭 ・アンケート調査を実施し、“基礎縫い（玉止め等）が習得できた”という回答生徒</p>	

<p>が90%以上にする。且つ“基礎縫いの方法は理解しているがうまくできない”と回答する生徒の割合を5%以下にするよう基礎の習得に努める。また、テーマに則した内容についてタブレットを用いて調べるや製作作品に関しての発表の機会を半期に1度設定する。</p>	R11
---	-----

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容⑪-10 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 • 生徒が主体的に活動や発表ができる授業展開を取り入れた公開授業を行い、思考力・表現力・表現力の育成を図り、学力向上に生かす。 (主体性の醸成 学力向上・教育課程検討委員会)	
指標 • R7年度の生徒アンケートにおいて、「学級では違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある。」の項目の肯定的な回答の割合を65%以上にする。	
取組内容⑪-11 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 • 小学校時の学力や中学校時のチャレンジテスト結果などの客観的データをもとに、生徒一人ひとりの学力を分析する。全教職員が公開授業や教科会などを通して、積極的な意見の交換をし、自己研鑽や授業力向上に努める。 (学力向上・教育課程検討委員会)	
指標 • R7年度の生徒アンケートにおいて、「学校は授業に集中できる環境が整っている。」の項目の肯定的な回答の割合を70%以上にする。	
取組内容⑪-12 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】 • 放課後を利用した学習機会の支援・・・「テスト前学習会」の実施、東住吉区教育活動サポートを活用して図書室にて自習学習行なう。また、図書室のお昼休み、放課後開放・読書推進を図る。 (元気アッププロジェクト)	
指標 • 昨年度の開校日以上(4日)、図書室のお昼休み、放課後週1回の開放を目指す。	
取組内容⑪-13 【施策6 国際社会において生き抜く力の醸成】 (元気アッププロジェクト) • 元気アップ地域本部「ENJOY!英活(隔週土曜2時間の取組)において、NATIVEスピーカーを講話者として教えてもらい、英語に対する親和性を高める	
指標 • 令和7年度末段階で英検3級程度以上の英語力を有する生徒の割合40%を目指す (24年度 GTEC結果 3年のみ実施 35%)	
取組内容⑪-14 【施策7 健康や体力を保持増進する力の醸成】 (保健体育科) • 毎時間、基礎的・基本的な運動を取り入れ、体力テストで昨年の自己記録を超える体力を身につけさせる。	
指標 • 昨年度の自己記録を超える生徒の割合を90%以上にする。	
取組内容⑪-15 【施策7 健康や体力を保持増進する力の醸成】 (健康教育部) • 委員会活動を中心に食育の啓発活動を行う	

指標	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動を中心に食育の啓発活動を行い、1月に実施するアンケートの「給食配膳時にエプロン・三角巾・マスクの着用を必ずした」「給食の時間になつたら手洗いを必ずした」という項目の肯定的回率を100%にする。 	
取組内容⑪-17 【施策7 健康や体力を保持増進する力の醸成】(健康教育部)	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動を中心に学校環境の美化に努める。 	
指標	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動を中心に学校環境の美化に努め、1月に実施するアンケートの「学校内をきれいに保とうとした」という項目の肯定的回率を90%以上にする。 	
取組内容⑪-18 【施策7 健康や体力を保持増進する力の醸成と防災】(健康教育部)		
指標	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断の意義や事後措置の必要性について、学年集会や保健だよりを通じて啓発活動を行い、受診率を90%以上とする。 月ごとに、来室状況を集計と分析をし、発信していく。 避難訓練・防災教室を実施し災害時に備えての防災意識を高める。指標としてアンケートを実施し、『防災意識が高まった』という項目の肯定的回率を90%以上とする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- 取組①②③(生活指導部)
 取組④(キャリア教育委員会)
 取組⑤(人権教育委員会)
 取組⑥(道徳教育委員会)
 取組⑦(生活指導部)
 取組⑧(特別支援教育委員会)

次年度への改善点

- 取組①②③(生活指導部)
 取組④(キャリア教育委員会)
 取組⑤(人権教育委員会)
 取組⑥(道徳教育委員会)
 取組⑦(生活指導部)
 取組⑧(特別支援教育委員会)

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組⑨⑩（教務部）

取組⑪－1（国語科）

取組⑪－2（社会科）

取組⑪－3（数学科）

取組⑪－4（理科）

取組⑪－5（英語科）

取組⑪－6（音楽科）

取組⑪－7（美術科）

取組⑪－8（保健体育科）

取組⑪－9（技術家庭科）

次年度への改善点

取組⑨⑩（教務部）

取組⑪－1（国語科）

取組⑪－2（社会科）

取組⑪－3（数学科）

取組⑪－4（理科）

取組⑪－5（英語科）

取組⑪－6（音楽科）

取組⑪－7（美術科）

取組⑪－8（保健体育科）

取組⑪－9（技術家庭科）

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組⑪－10,11（学力向上教育課程委員会）

取組⑪－12,13（元気アッププロジェクト）

取組⑪－14（保健体育科）

取組⑪－15（保健体育科）

取組⑪－16,17（保健環境部）

P13

次年度への改善点

取組⑪－10,11（学力向上教育課程委員会）

取組⑪－12,13（元気アッププロジェクト）

取組⑪－14（保健体育科）

取組⑪－15（保健体育科）

取組⑪－16,17（健康教育部）